

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (教育学) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	藤 井 志 保
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論文題目 (Title of Dissertation)			
家庭科におけるケアリング教育の開発に関する研究			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	教 授	伊 藤 圭 子	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教 授	木 原 成 一 郎	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教 授	宮 里 智 恵	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教 授	森 田 愛 子	
[論文審査の要旨]			
<p>本論文は、ケアリング教育の理論と方法を適用して、家庭科におけるケアリング教育モデルを構想したうえで授業を開発し、授業実践によって子どものケアリング生成過程を実証的に検討することを目的としている。</p> <p>論文の構成は次のとおりである。</p> <p>序章では、ケアリング教育の重要性について述べ、先行研究を検討して問題点を明確にし、本研究の目的と研究方法を述べている。学校教育において人と人との関係性を軸として生活について学ぶ家庭科教育をケアリングの視点で見直すことが重要であることを指摘している。</p> <p>第1章では、家庭科におけるケアリング教育の意義を明らかにするとともに、家庭科の学習指導要領や教科書の記述、先行研究や先行授業実践をケアリング教育の観点から分析し、家庭科教育の課題を提起している。</p> <p>第2章では、子どもの日常生活の課題解決におけるケアリングの実態を明らかにし、家庭科におけるケアリング教育モデルを構想するための示唆を得ている。</p> <p>第3章では、第1章・第2章を踏まえ、家庭科におけるケアリング教育モデルを構想し、それをもとにケアリング教育の授業を開発する課題を提起している。</p> <p>第4章では、第3章で構想した家庭科におけるケアリング教育モデルをもとに、ノディングズ (Noddings, N, 1984) によるケアリング育成のための4つの学習方法に基づいた中学校家庭科における授業「地域の方との交流会」を開発・実践し、それをケアする人とケアされる人の双方向から分析することによって、中学生のケアリング生成過程を実証的に検討している。</p> <p>第5章では、中学生による長期的ケアリングを必要とする題材「幼児とのふれあい体験」を開発・実践し、それを中学生のケアリング意識、幼児の保護者の意識に着目して分析し、中学生と幼児との長期的なケアリング育成について実証的に検討している。</p>			

終章では、研究の総括をして、研究成果と課題について述べている。家庭科におけるケアリング教育モデルは、学校において授業実践した結果、家庭科の授業において単に知識や技能の習得にとどまらず、子どもたちが自分以外の他者とのかかわりの中で、人をケアしたり、ケアされたりする経験と共に、実感を伴って生活の課題を解決する生活実践力の習得において高い学習効果が認められた。また、ケアリング事例や他者との出会い<モデリング>が、子ども自らがめざすゴールを設定する意欲につながったこと、仲間や家族、教師との<対話>により、ノディングズの6つの学習領域を広げる視点で活動する意欲を有したこと、またケアした人の反応を子どもへ返す<確証>を取り入れることが、子どもたちにケアリングの生成を促すことなどが明らかとなった。今後の課題として、本モデルの適用範囲の拡大、他教科や家庭・地域と連携したカリキュラムの開発、子どものケアリング形成における評価方法の検討の重要性に言及している。

本論文は、次の3点で高く評価できる。

1. 子どもの日常生活におけるケアリングに関する実態調査によって、子どもの生活の課題解決の過程を明らかにし、それに基づいて家庭科におけるケアリング教育モデルを構想したことである。
2. 家庭科におけるケアリング教育モデルを具現化した授業を開発し、授業実践し、ケアリングをケアする人とケアされる人の「双方向」から捉えることの重要性を実証している。
3. ノディングズのケアリング理論を適用することにより、家庭科においてケアリングを育むためには4つの学習方法のうち<確証>が重要であることを明らかにしたことである。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和 5 年 2 月 10 日

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)